

ICT技術を活用した 環境・エネルギー事業を展開し、 環境負荷低減社会の実現に 貢献していきます。

西日本電信電話株式会社
代表取締役社長

村尾 和俊



NTT西日本グループでは、これまで環境負荷低減に積極的に取り組んでまいりましたが、年間約20億kWhという大量の電力を消費している企業責務も踏まえて、よりいっそう電力使用量削減等環境問題に全力で取り組むことを宣言するため、「グリーンNTT西日本戦略」を2012年6月に策定しました。「グリーンNTT西日本戦略」は、自らの環境負荷を低減することで社会に貢献する「環境グランドデザインの達成」、ICT技術の利活用による事業活動を展開することで環境に貢献する「環境・エネルギー事業の展開」、そして、社員一人ひとりが地域の自然環境保護に貢献する「生物多様性保全活動の推進」を三本柱としています。

「環境グランドデザインの達成」では、2020年度までに自社利用の電力使用量を2010年度に比べ40%以上削減することを目標にしています。電力使用の多くを占める通信設備では、グループ会社と協力して抜本的に電力を削減する外気導入空調のトライアルを開始したり、電力見える化の展開によるオフィスの省エネ等自らの電力使用量削減に積極的に取り組んでいます。また、紙使用量の低減では、社内誌の電子化を進め、廃棄物の低減では、2012年度は最終処分率1%以下のゼロエミッション*を達成しています。

「環境・エネルギー事業の展開」では、ICT技術と不動産を活用した社会貢献も進めています。例えば、緑等に親しむ機会の少ない都市部において野菜作りを通して自然を考えてもらうため、ICTによりいつでも栽培状況が確認できる水耕栽培型レンタル農園「みえ〜るエコ畑」を2013年4月にNTTアセットプランニングが

開園しました。屋外型の「みえ〜る菜園」とあわせると、西日本エリア9箇所で開催しています。また、再生可能エネルギーの導入は、2013年3月までで発電容量1200kW、発電量920MWhに達しました。さらにNTT西日本鈴鹿研修センタ跡地等太陽光発電に適した敷地を貸し出し、NTTファシリティーズがメガソーラーを建設する等、資産活用による積極的な展開も進めています。その他、日本国内の太陽光発電システムの発電量統計データ整備活動に協力するため、合計発電容量が100MW(2013年12月時点)に達した「エコめがね」の計測データを、6月から産業技術総合研究所にNTTスマイルエナジーより提供しており、日本の再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

「生物多様性保全活動の推進」では、これまで18府県、約2000名の社員とその家族・退職者等が活動してきました。これらの活動を継続した取り組みとして、展開、推進するために、「NTT西日本みどりいっぱいプロジェクト」を立ち上げ、2012年11月に大阪府堺市の「共生の森」での植樹会にてキックオフを行いました。生物多様性の保全は、植樹や里山保全、絶滅危惧種保全等、それぞれの地域にあった活動が求められていることから、NTT西日本のサービス提供エリア全30府県で活動を行うこと、年間1万人以上の活動規模にすることを目標として推進していきます。2013年度中には全30府県での活動がスタートしている計画です。

このような取り組みを通して、NTT西日本グループの社員一人ひとりが、環境問題に対して、よりいっそう積極的に取り組み、社会に貢献することを皆様にお約束します。

*国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1.0%以下をゼロエミッションと定義。